



今夏の節電の取組み

- 1. 各社共最低7%以上の最大需要電力の削減を実施**
企業によっては、20%以上の削減日を設けて全日達成した企業もある。
- 2. 操業の工夫を通じた電力ピークシフト**
ピーク時間帯における稼働の分散化、設備の部分的な停止、空調や照明の停止
休日や夜間への製造シフトによる電力需要の平準化など。

今冬の節電の課題

- 1. 24時間を通じた電力削減が必要**
夏場と異なり、日中・夜間共に電力需要がありピーク時間帯がない。
- 2. 発電機導入の経済性**
大規模ラインを動かすためには大型発電機が必要であり、今からの導入は間に合わない。
導入したとしても、ランニングコストがかかり、赤字となってしまう。
- 3. 計画停電のリスク**
半製品品質確保の課題有り。商品によっては製造開始から数日間連続した電力が必要。
- 4. 風評被害**
北海道地域へ進出希望の企業からの電力需要に関する問合せが急増。
※夏場以上の企業努力を呼びかけ電力削減に取り組むが夏季の様なピークカットは通用しない。



北海道 千歳工業クラブ会員企業の 今夏の節電状況と冬季の課題(2)

今冬の節電対策

1. 操業上の工夫による最大需要電力の削減
 - (1)稼働の分散化(昼間専用ラインを昼夜交互稼働など)
 - (2)設備の部分的な停止(同時に複数ラインを稼働させない、人手による運転・停止など)
 - (3)冷凍設備・排水処理設備等の使用電力が大きい設備の運転時間調整
 - (4)運搬車両の充電時間分散化
 - (5)暖房設定温度見直し・使用時間の制限
2. 休日や夜間への製造シフト
3. LED照明等省エネ機器導入による節電
4. 状況に応じた最適な暖房エネルギーの選択(電力からガス、重油へ)
5. 他の製造拠点への製造の振替え

計画停電により想定されるリスク例

1. 中央制御コンピュータの停止による暖房設備も停止、配管・タンクの凍結・設備破損
2. 製造工程中断による半製品の廃棄
3. 倉庫保管製品の凍結による廃棄
4. 他の製造拠点への製造振替による輸送費の増加 → 最終的には、製造拠点の廃止・移転